

業務紹介

～ 調査地区の紹介「^{いわきがわ さがん}岩木川左岸地区」～

本地区は、令和元年度より国営施設応急対策事業「岩木川左岸地区」の調査に着手し、事業計画策定に向けた各種調査を令和3年度も引き続き実施しています。ここでは、その概要について紹介します。

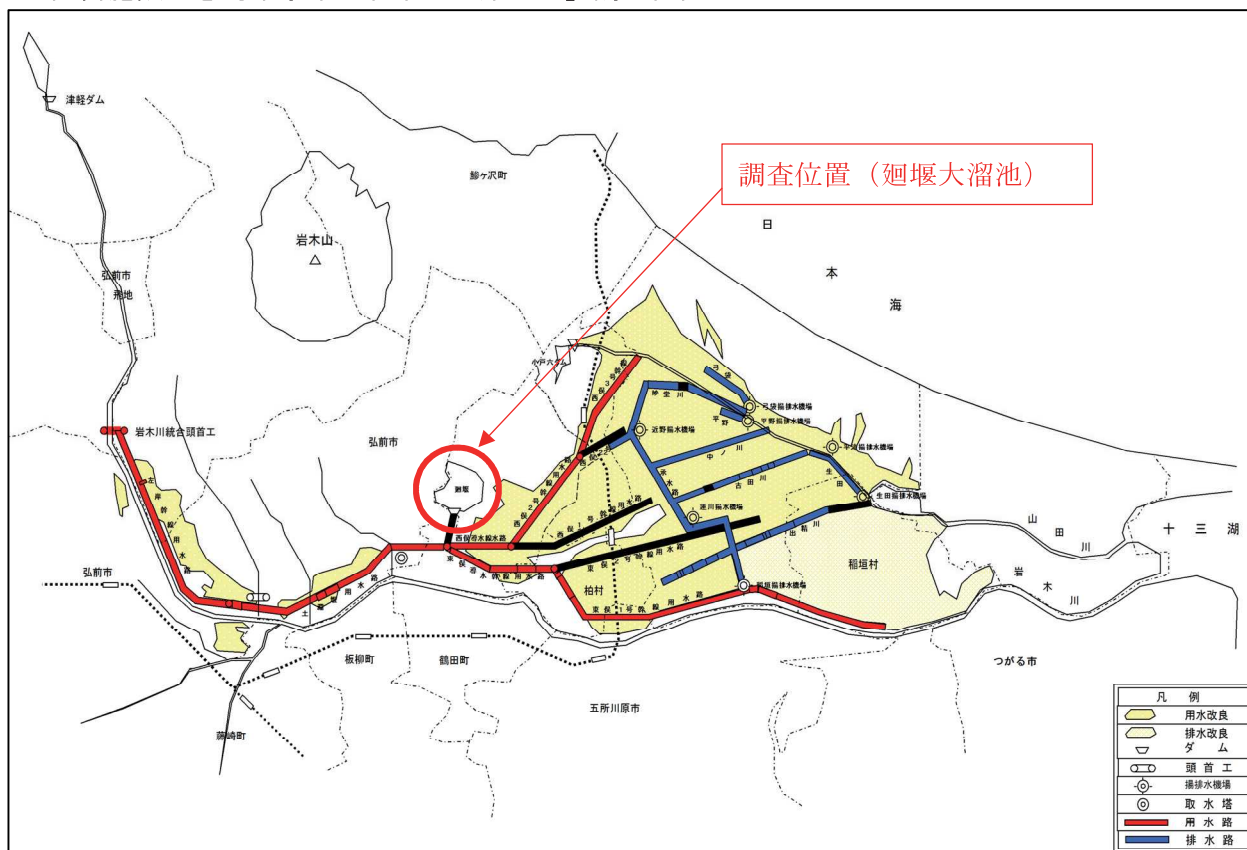
1. 地区概要

本地区は、青森県西部津軽平野のやや中央部に位置し、つがる市、鶴田町にまたがる農業地帯です。本地区の営農は水稻を中心とし、水田畑利用による大豆の生産のほか、りんごや野菜を組み合わせた営農が展開されています。

本地区の基幹的農業水利施設である^{まわりぜきおためいけ}廻堰大溜池は、1660年代に津軽藩4代藩主^{つがるのがまさこう}津軽信政公の命により、新田開発・用水補給のため、堤防を築き造られたものです。その後、幾度かの決壊・補修を重ね、国営西津軽、西津軽第二農業水利事業（昭和18年度～昭和55年度）の補給水とするため、同事業により、ため池堤防を約4m嵩上げし、昭和35年に現在の堤防が完成しました。

さらにその後、国営岩木川左岸土地改良事業（平成8年度～平成25年度）により、施設の一部が整備されてきました。

<国営施設応急対策事業「岩木川左岸地区」調査位置図>



2. 事業の概要

本地区の基幹的な農業水利施設である「廻堰大溜池」は、堤頂長が約4.2kmあり、日本一堤頂長の長いため池です。

廻堰大溜池の直下流には民家が建ち並ぶほか、近隣には小学校や老人ホーム等があります。

東日本大震災を契機として、廻堰大溜池の耐震性能照査（レベル1地震動※¹）を実施したところ、堤体の安全性を確保出来ないことが判明しました。

このため、不測の事態が発生した場合のリスク等を把握するための原因究明等調査として、廻堰大溜池の詳細な耐震性の点検・調査を行い、耐震対策の検討を行うものです。

また、令和2年4月に廻堰大溜池北西部の堤体法尻から漏水が確認され、対策工及び対策範囲の検討を行うものです。

1) 現況写真

廻堰大溜池全景



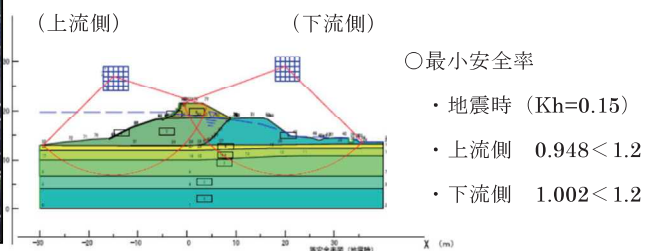
堤体内側



堤体外側



2) レベル1地震動による耐震性能照査断面



3. 調査計画及び実施状況

【耐震対策】

廻堰大溜池の耐震性能照査に当たっては、廻堰大溜池の3断面について検討を行うこととしました。

令和元年度～令和2年度は、1断面の地質調査、耐震性能照査（レベル2地震動※²）及び対策工法の検討を実施しました。

令和2年度は、2断面の地質調査、耐震対策工法の検討及び概算事業費の算定を実施しました。

令和3年度は、2断面の耐震性能照査（レベル2地震動）、耐震対策工法の照査、概算事業費の精査を実施しています。

【漏水対策】

令和2年度は、漏水観測を実施し、応急漏水対策及び漏水監視設備の設置を行いました。

令和3年度は、漏水観測を継続し、恒久漏水対策工の施工方法及び範囲決定のための検討を実施しています。

※1：施設の供用期間内に1～2度発生する確率の地震動

※2：発生する確率は低い地震動強さの大きな地震動

業務紹介

～ 調査地区の紹介「浪岡川(二期)地区」～

本地区は、平成 29 年度から国営施設応急対策事業「浪岡川(二期)地区」の調査に着手し、事業化に向けた各種調査を実施中です。ここでは、その概要について紹介します。

1. 地区概要

本地区は青森県西部、津軽平野のやや中央部に位置し、青森市、五所川原市、藤崎町及び板柳町にまたがる農業地帯です。

本地区の基幹的な農業水利施設は、昭和 46 年度から昭和 63 年度にかけて国営浪岡川農業水利事業（以下「前歴事業」と表記。）により、水源である浪岡ダムを始め、頭首工、揚水機場、幹線用水路等が整備されています。

このうち、ダム放流設備の放流管や管水路では漏水等の不測の事態が発生しました。

また、前歴事業で整備された農業水利施設は、完成から 30 年以上を経たものもあるなど、全体的に老朽化が著しく、農業用水の安定供給に支障を来しているとともに、施設の維持管理に多大な費用と労力を要しています。

このことから、本事業により施設の漏水原因の調査及び対策を行うとともに、老朽化が進行している農業水利施設の改修を行うことにより、農業用水の安定供給及び維持管理の軽減を図り、農業生産性の維持と農業経営の安定に資するものです。

また、本事業は令和 3 年度までの時限事業であることを踏まえ、後継事業や新たな事業を検討し早期事業化に向け、進行しているところです。

